

コロナ禍：学生のいない野田キャンパス（2020年5月7日【連休明け】撮影）撮影者（大岩昭之氏・1968工建）

臨時総会報告

野田建築会会則第9条第1項に基づき、2021年5月22日に開催された臨時総会は、新型コロナ禍の折WEB会議にて開催されました。出席者10名、委任状117名、合計127名の出席を得て、会則第10条により総会員数6,781名の1/60以上(114名以上)の出席にて成立したことをご報告いたします。

議案 野田建築会会則改定の件

野田建築会会則第12条に基づき、別紙1「2021年改正案」の通り、会則を改正したく承認を求めます。なお、本議案は会則第31条に依り出席会員の3分の2以上にて議決されました。

別紙1 野田建築会会則 2021年改正案

別紙2 野田建築会会則 改正前後比較表

※別紙2 野田建築会会則 改正前後比較表

| 改正前 | 改正後 |
|---|---|
| <p>第3章 総会 第11条 (議決)</p> <p>総会の議決は、出席した普通会員の過半数の同意により成立する。</p> | <p>第3章 総会 第11条 (議決)</p> <p>総会の議決は、出席した普通会員の過半数の同意により成立する。なお、委任状を持って出席とみなす。また、総会に付議される事項につき書面をもってあらかじめ可否の意思表示をした者は、出席とみなす。</p> |

※別紙1(野田建築会会則 2021年改正)については、野田建築会ホームページにて掲載されておりますので、ご覧ください。



オンライン総会の様子

井上隆教授退職記念講演会の報告

保木 栄治 (1992年修了)

井上隆教授の退職記念講演会が、2021年3月13日にYouTube上で開催されました。視聴された方の人数は不明ながら、アクセス数は当日500回、7/25時点で延べ760回と多くの方に視聴いただきました。視聴者の内訳は事前のアンケートでは一般の方が45%と卒業生に迫る結果でした。なお、参加表明された方には、井上先生のプロフィールや研究室の歩みなどを記載した記念誌を事前にネット上で配布しました。

ご講演では、建築環境工学・建築設備の分野における広範囲なご研究の中から、建物外皮、特に窓まわりの熱と光の制御を通じた省エネルギーと快適性の向上を中心に、ご自身の卒論時

から現在に至るまでの研究について、社会情勢や政策との関連なども交えてお話いただきました。建築・都市に関しては、実測・シミュレーション・アンケート調査を用いてエネルギー消費・環境の質・満足度の関係性を踏まえた最適解を追求した多くの事例を説明されました。住宅に関しては、エネルギー消費実態と居住者の認識の大きな乖離を明らかにし、実効性のある省エネ行動に繋げる活動をされたこと、コロナ禍による在宅時間の増加の影響が実測結果にも表れており、ますます対応が重要であることなどについて言及されました。近況として、趣味の自転車で休日出勤を主に年間3000km以上走行され、2019



講演される井上先生

年には赤道一周分の4万kmに達したこと、1日の最長走行は郡山までの230kmであることなど健脚ぶりを披露されました。人材育成の観点からは、五感全てを使ったコミュニケーションの重要性を再認識され、感染症の一日も早い収束を願われていることを強調されました。

ご講演の最後に、ご自身が博士論文の最終頁に記された「建物の外皮を生物の皮膚になぞらえ、環境に応じて進化し洗練された様々な解を持つはずであり、これからも解を求める労を惜しまない」旨のお気持ちは今でも変わらないと述べられました。Ars longa, vita brevis. (Art is long, life is short) ということを実感していると仰り、研究に携われた方々への感謝の言葉で締めくくられました。



撮影スタッフ(リハーサル)

その後、来賓の東京電機大学学長の射場本忠彦先生、東京大学名誉教授の加藤信介先生、元東京大学特任教授の柳原隆司先生、本学OBで関東学院大学教授、空気調和・衛生工学会会長の大塚雅之先生から、井上先生の若かりし頃のエピソード等を交えてご祝辞を頂きました。

講演会は歴代の助教の先生方とOB有志からなる実行委員会で企画・運営しました。当初、井上先生のご退職に合わせて2020年3月に最終講義・祝賀会を計画していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により2回の延期後も感染収束が見通せないことから、更なる延期は行わず、WEB配信にてご退職記念講演会として開催し、祝賀会は断念することとなりました。祝賀会を予定していたクレストホテル柏を会場とし、感染症対策の観点から、井上先生と来賓の先生方、実行委員の一部のみが参集し、プロのカメラマンの撮影により行われました。費用は祝賀会の会費を講演会に充てさせて頂くことに同意頂いた多くの方々のご寄附により賄うことができました。皆様のご理解・ご協力に、たいへん感謝しております。

2年4ヶ月に渡る実行員会の活動を通じて、井上先生のお人柄や業績の素晴らしさに改めて触れ、感謝と今後の益々のご活躍を願う気持ちで一杯になりました。



左から 大塚雅之先生(関東学院大学教授)
加藤信介先生(東京大学名誉教授)
井上先生
射場本忠彦先生(東京電機大学学長)
柳原隆司先生(元東京大学特任教授)



いのうえ たかし
井上 隆

1954年 富山県生まれ
1973年 東京大学理科I類入学
1977年 東京大学大学院工学系研究科
建築学専攻修士課程
1979年 建設省入省住宅局
1982年 東京大学工学部建築学科助手
1989年 東京理科大学理工学部建築学科専任講師
1997年 ウィーン工科大学客員研究員
2002年 東京理科大学理工学部建築学科教授
2014年 (公益社団法人)空気調和・衛生工学会 会長
2020年 東京理科大学名誉教授
東京電機大学客員教授

建築と向き合う多様な働き方



わくい ひでよ
樋井 英代

2005年 小嶋一浩研究室 学部卒
 2005～2008年

設計事務所 勤務

2008～2017年

株式会社 福田組 勤務

2018年 ハナブサプランニング設立

BIM モデリング業務開始

<https://hanabusaplanning.storeinfo.jp/>

リモートで働くことが当たり前になってきた近頃ですが、大きく叫ばれるようになる少し前の2018年からフリーランスの立場でBIM(Building Information Modeling)による設計支援業務を行っております。

前職でBIMと出会い3Dで設計することに素直に感動しました。子供を授かり働き方を見直すタイミングで今の形をとり、BIMがメインツールである設計事務所様にフルリモートワークでの業務希望のご連絡を差し上げたことから今日に続けております。

BIMが遠隔地からのデータ共用に長けたソフトであることは間違いありません。新潟市を拠点に活動しておりますが、現在全国のお客様と意思疎通で不便を感じることはほぼ無く、オンライン上ではいつでもオープンです。以前チャットワークでの打合せ中「同じオフィスで作業するよりコミュニケーションがとりやすい」とのお言葉を頂戴したこともありました。コロナ禍で物理的に人と会えない日々が続いておりますが、ネット上では以前より距離が縮まった印象です。現在はお仕事を通じて出会った方達と一緒に設計チームの形を組み組み始めた所で、また新しい挑戦です。

大学卒業当時想像もできなかった毎日を過ごしておりますが、フリーランスになったことで同期や先輩との協業も叶い学生に戻った気分でした。建築に対しての向き合い方は本当に多様な働き方があると思いますが、タイミングやバランスを見て立ち位置を変えながら続けることも選択肢の1つだと思えます。



断面検討モデル©一級建築士事務所オプデザイン

在学生の皆さんは今が色々なソフトに触れる又とないチャンスです。どんどん興味をもったソフトに挑戦してオンライン勉強会にも積極的に参加してみてください。BIMに関しては全国のユーザーが丁寧に教えて下さいますよ。卒業生の皆様とは世界中どこにいらしても一緒する可能性がございます。見かけた際は是非お声がけいただけますと幸いです。



内装検討モデル©一級建築士事務所オプデザイン

震災から10年を経て想うこと



あだち かずゆき
安達 和之

1963年 山形県生まれ

1987年 学部卒(堀川研究室)

1988年 修士課程中退後(株)

(株) 富井建築設計研究所入社

2000年 (株) 羽田設計事務所(山形市) 入社

現在 同社常務取締役

(公社) 日本建築家協会(JIA) 会員

記憶に残る日付「2011年3月11日」から10年余りが経過し、復興五輪と銘打った東京オリンピックも始まりました(執筆時)。経過した時間は一区切りかもしれませんが、被災者にとってはどうでしょうか。私なりの震災復興への関わりを通して振り返ってみたいと思います。

私は山形市にある設計事務所勤務に勤務していますが、被災3県に比較的近いこともあって、応急危険度判定や建築相談に出向く機会がありました。特に印象深かったのは宮城県東松島市での建築相談です。被災から日も浅いためか相談も少なく、たまに来られる方も地割れが生じているが大丈夫かとか、屋根瓦がほとんど落下したが直せるか等必死に問いかけてきますが、即答できない相談がほとんどでした。それだけ被害が深刻だったといえますが、設計の専門家として無力感やもどかしさも感じました。



東松島市野蒜地区災害公営住宅全景 正面奥に松島湾

その後縁あって（プロポーザル）同市の復興事業に関わらせていただきました。津波対策として隣接する丘陵地を切り開き、駅舎や学校もある約90haの新しい街をつくる高台移転計画で、このうち私が関わったのは140戸の災害公営住宅です。計画当初5種類の住戸案を入居希望者に提示したところ、賃貸とはいえ自分の住む家ですから真剣な吟味を受け、多様な要望が出されました。当時仮設住宅で不自由に生活しながら、新しい生活に希望を見出そうとしていたのだと思います。結果的に10タイプに増大しました。正直設計業務も倍増するわけですが、必死の建築相談や入居希望者と直接向かい合っていたからこそ実現できたような気がします。

この災害公営住宅は平成29年8月に完成しました。完成直後は街並みによそよそしさも感じましたが、住宅ごとの花壇造りで潤いや生活感もでてきています。必死に建築相談に来られた方々、計画案に遠慮がちに要望を出された方々、現在どのように過ごされているでしょうか。当時のことを思い出すたびに、被災された方々の安寧を改めて願わずにはいられません。



東松島市野蒜地区災害公営住宅 歩行者専用通路近景

ワクワク人生まだまだ続く



えぐち りさこ
江口 梨紗子（旧姓：須田）

1977年 名古屋市生まれ
2001年 理工学部建築学科卒業（井口研）
当時のパートナーと
ファッションブランド立ち上げ
2003年 理工学研究科建築学専攻修士課程修了
（初見研）
就職もせず、フリーター生活をはじめる
挫折後、地元名古屋にて父親の経営
する会社に入社
2018年 STANDS ARCHITECTSにて、
生まれて初めての設計業務につく
2020年 食品事業部、Organic Pantryを立ち
上げる
<http://organic-pantry.jp/>

基本的に好きなことしかできないタイプで、せっかく大学に入っても、面白くないと思った授業はサボるか、睡眠時間に充てるか、という大変不真面目な学生でした。単位もギリギリで、卒業設計もディレイでした。しかしながら、先生方、先輩、同級生、後輩たちと竹泉で飲み明かしたり、熱い議論を交わしたり、夜の街で遊びまわったり、そんな時間はとにかく楽しく刺激的だったので、そのすべてが素敵な思い出となっていて、今の私の人生を支えてくれていると強く感じています。現在、5歳の娘と3歳の息子を育てていますが、彼らにも、人生の宝だと感じられるような素敵な出会いや体験をたくさん持つて欲しいと思っています。

父の会社で16年間タイルに関わりました。マンションディベロッパーや設計事務所への営業活動、タイル工事の現場管理を担当したのち、後を継ぎました。タイルはたいては好きじゃないので、タイルマニアの父にはそのままタイルの仕事の続けてもらいつつ、私の方では昨年、食品事業部を立ち上げました。農業を使わない冷凍カット野菜、等のオーガニック食品をオンラインで販売しています。若いころから食品関連の仕事には興味があったものの、どこかで実現しないものとして生きてきましたが、子どもを持ったことで、彼らに自分の誇れる仕事をしている姿を見せてあげたいと思い、奮起しました。

また、2018年には念願の設計事務所勤務も果たし、図面を描いたり、現場監理をしたりと、建築士としても活躍することができて、うれしく思うとともに、「建築だいき！」という感覚がもてず、現在は、建築士としての活動は休止しています。とは言え、どこかで少し触れていたいという気持ちもあり、これからも距離は保ちつつ、しかし一生の付き合いになるのかな、という気がしています。いろんなことが起きて、とにかく楽しい人生もちょっと折り返し地点、これからもどんな新しいことが起きるのかワクワクしています。



初めて設計監理した住宅。オリジナルタイルのデザイン、販売も。



安心、美味しい、に徹底的にこだわった食の通販サイトをオープンしました。

新任助教のご挨拶



キム ジュンホ
KIM JUNHO
 1987年 韓国生まれ
 2014年 韓国清州大学大学院
 建築材料専攻修士課程 修了
 2017年 室蘭工業大学大学院 工学研究科
 先端環境創成工学コース 博士後期課程
 修了 博士(工学)
 2019年 小山工業高等専門学校 建築学科 助教
 2021年 東京理科大学理工学部建築学科助教



ほりこし かずき
堀越 一希
 1993年 千葉県生まれ
 2011～2015年
 東京理科大学理工学部建築学科
 2015～2017年
 同大学院理工学研究科建築学専攻修士課程
 2017～2018年
 IST(リスボン工科大学)、ポルトガル交換留学
 2019～2020年
 同大学院理工学研究科建築学専攻博士後期課程
 2020年～ Kazuki Horikoshi 主宰
 2021年～ 東京理科大学理工学部建築学科助教、
 博士(工学)

兼松研究室に所属している KIM です。2014 年から日本に来てはや 7 年目になりました。

博士課程のため北海道の室蘭工業大学に入学し 3 年間勉強しました。博士課程ではロータリークラブの米山奨学金を受けており、ロータリークラブの一員として生活し、無事に卒業し日本と韓国との架け橋になって欲しいとの意思を受け継いでおります。

幸いにも最初に就職していた小山工業高等専門学校は先生と学生の距離が近く、私が学生時代にお世話になったことの恩返しになるように学生と心から接していました。

東京理科大学でも授業や研究を頑張るうえで学生の学校生活に楽しい思い出が残るようにしていきたいと思っております。

担当する授業としては、建築材料実験、建築施工Ⅱ、材料防火実験になりますので、3 年生から接することが多くなります。

微力ではありますが、皆さんの力になりたいと思っておりますのでこれからもどうぞよろしくお願い致します。

2021 年 4 月より岩岡研究室の助教に就任した堀越です。

私は学士・修士・博士を修得する全ての期間において東京理科大学理工学部在籍し、大学生活においてもずっと野田キャンパスの周辺で下宿をしていました。

思い返してみると、利根運河が流れるおらかな教育環境のなかで勉強できたことは、自分自身にとっても大きな影響があったと実感しています。私の専門は、建築の意匠設計の分野です。

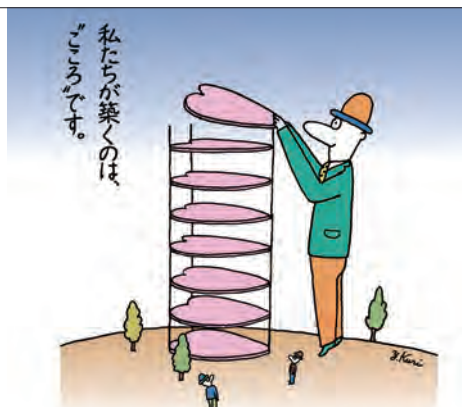
そのため授業においては学部二、三年生が履修する「設計製図Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」から「設計演習」に至るまで、建築の意匠設計に関わる必修・選択授業を常勤と非常勤の先生方と一緒に担当しています。私が学生だったときから変わらない、伝統ある考え尽くされた課題設定や古参の非常勤講師：建築家の方々の存在など、東京理科大学の教育レベルの高さを教員になって改めて実感しています。

この度は、何かと思い入れのある野田キャンパスで、お世話になった先生方と一緒に教員として働けることになり、本当に光栄に思っています。まだまだ未熟者ですが、これからどうぞ宜しくお願い申し上げます。

高める、つくる、そして、支える。



熊谷組



K&E

ケーアンドイー株式会社



りゅう こう
劉 虹

1988年 中国上海生まれ
 2007～2012年 上海・同济大学土木工学科
 (2009～2010同外国語学部ドイツ語強化課程)
 2012～2014年
 Bechtel Engineering & Construction Co. Ltd
 (構造設計者)
 2017年 大阪大学大学院工学研究科
 地球総合工学専攻博士前期課程修了、修士(工学)
 2018～2020年 日本学術振興会特別研究員 DC2
 2021年 大阪大学大学院工学研究科
 地球総合工学専攻博士後期課程修了、博士(工学)
 2021年～ 東京理科大学理工学部建築学科助教



こくぶん げんた
國分 元太

1992年 東京生まれ
 2015年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
 2018年 東京理科大学理工学研究科建築学専攻修了
 修士(工学)
 2018年 塚田修大建築設計事務所
 2019～2021年 長沼アーキテクト株式会社
 2021年～ 東京理科大学理工学部建築学科助教

2021年4月に永野研究室の助教として着任いたしました劉虹と申します。

私は土木系(橋梁工学)の学科出身ではありますが、大学院では建築構造、特に縦長開口がある鉄筋コンクリート造連層耐震壁に対して、開口高さに関する耐力低減率の高精度化を進めています。博士前期課程から研究の楽しさを感じ、主婦になるつもりだった私が博士後期課程まで進学しました。この度、この研究の楽しさを皆さんに伝えるようにしたいため、大学教員になりました。

また、永野研究室に所属することは、今までの研究テーマと大きく変わりますが、人生の楽しみとして、先生方のサポートや研究室メンバーを始めとする学生の皆さんから原動力を頂きながら、新しいステージで精一杯努力します。

授業においては学部二年生が履修する「構造力学の演習」と「材料実験」、また三年の「構造実験」を担当しています。微力ながらも、これまでの留学経験やアメリカ企業に就職した経験、中国語、英語、ドイツ語などのマルチリンガルの能力を生かして、授業や研究指導だけではなく、日常生活などにも学生の皆さんをサポートしたいと思います。至らない点も多々あるかと存じますが、これからどうぞよろしくお願い致します。

2021年の4月より山名研究室の助教に着任した國分元太と申します。私は学部・修士(1年間の休学を含む)の7年間を野田キャンパスで過ごしました。大学院修了後に3年間ほど設計事務所で働き、運河に戻ってきました。またこうして理科大に籍を置き、研究・教育活動に携われることを大変嬉しく思っています。

学生時代は山名研究室に所属し、主に東南アジアの近現代建築に関する調査・研究を行っていました。なかでも、東京大学の村松・林研究室と協働し調査を行った mASEANa Project では、東南アジアの都市や建築をみる多くの機会が得られたとともに、海外の学生や専門家と交流ができ、大きな学びがありました。こうした経験をもとに、現在は旧仏領インドシナの屋根付き市場を対象に、公衆衛生や技術伝播の視点から研究に取り組んでいます。

3年ぶりに野田キャンパスに通い始め、ゆったりとした時間が流れる運河の素晴らしさを再認識しました。このような環境のもとで、学生のみなさんの研究・設計活動が充実したものになるよう貢献できればと思います。どうぞよろしくお願い致します。

退任助教のお知らせ

2021年度3月末で退任された先生方です。

西尾 悠平、片桐 悠自、王 欣、長谷川 香



未来へ延びる。



鉄建建設株式会社

本社：〒101-8366

東京都千代田区神田三崎町二丁目5番3号
 TEL 03-3221-2152 (代表)

両国リバーセンター



外観 建物正面

2020年12月に竣工した中畑さんの設計した自邸を、この7月に見学させていただいた。浜松市郊外にあり、建物は間口約13.6m×奥行き約8.1mの平屋である。建物の正面には植栽が道路に沿って植えられ、その奥にモルタルで塗られた外壁とコンクリートの柱梁が垣間見える。植栽に向かって庇とテラスが張り出していることを除けば、建物はシンプルな直方体である。

一步内部に入ると、天井が特徴的である。2.73m×2.73mピッチにRCの独立柱があり、その頭つなぎのRC梁の上に、木造の屋根が架け渡されている。木造の屋根は二重構成になっており、上層の屋根面にはトップライトが大小11カ所あるとのこと。300ミリ程の空気層を挟んで下層は、LVLによる天井格子のアーチがRC梁間に架け渡されている。アーチは長手方向に5連あり、カーブの緩急が少しずつ異なっている。この天井格子は厚さ30ミリ高さ1mのLVLボードからアールをくり抜き、455ピッチで縦横交互に噛み合わせ組まれている。上層のトップライトからの自然光が、格子のフィルターを通して室内に光を落とす。格子のセルの内側は明るくなったり暗くなったり、陽の動きとともに刻々と変化する。予想もつかない光と影の変容を、いつまでも見ていることができる。

なかはた まさゆき
中畑 昌之

1979年 静岡県生まれ
2006年 東京理科大学大学院修了
2006～2007年
University College London, The Bartlett school of Architecture
M.Arch 留学
2008～2011年 東京理科大学助教
2010～2014年 htmn 共同主宰 現在 karman studio/LUCKYDROPS 主宰
2013年～ 東京理科大学非常勤講師
2018年～ 静岡理工科大学非常勤講師
Web サイト : <http://karmanstudio.net>



左：中畑さん 右：筆者

コンクリートとLVLの組み合わせには、様々なこだわりが見受けられる。室内に剥き出しのコンクリートの柱・梁には打設時の水垂れが定着したままで、まるで昔からそこにあったかのように作られている。

それに対してLVLボードは小口端部の形状まで精度高い仕上がりで、プレカットによる工場製作とのことである。屋根を組み立てる際には、LVL材に雨がつかないように屋根の上全体を仮屋根で覆い、LVLボード部分は3日間で組み上げたとのことである。

天井格子は、自然光をそのまま受け入れる普通の開口部とは違い、たくさんのセルがあちこちでゆっくり点滅するような、今まで見たことのない不思議なデジタル感がある。アナログで永続性を感じさせるコンクリートの上に、軽やかに木製の薄板を組立てて対象的な構成を見せており、ハイブリッドの面白さを追求している。全体を一つの構法で作ることは最初から全く想定していなかったとのこと、この建物を通じて、設計者の新しい建築へ挑戦する意欲を強く感じた。

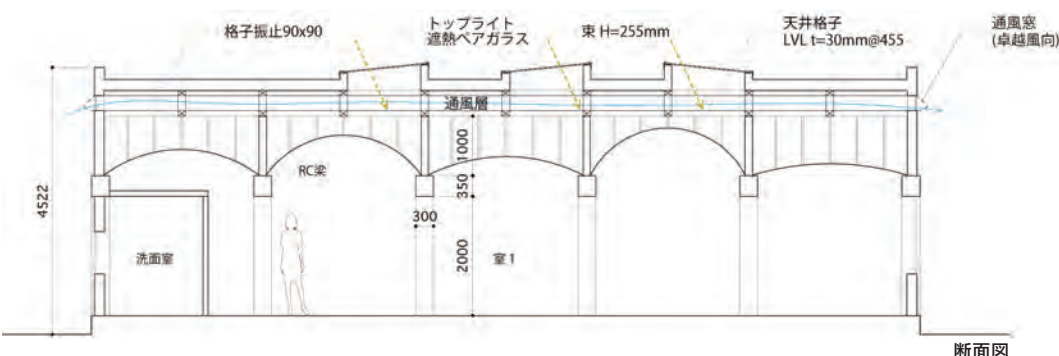


天井格子 見上げ



RCの柱梁とLVLの天井格子

キッチンに立つ中畑さん



断面図

「みんなの家」ビデオメッセージ紹介

中山 智仁 (2004 年修了)

出典：hime for all のホームページより



東日本大震災より 10 年の節目に、伊東豊雄さんがはじめた「みんなの家」について設計者達が作成したビデオメッセージをご紹介します。

<https://youtu.be/4bfENQpXqDc>



南相馬では放射線の影響で子供が土に触れられないことから、屋内砂場の機能を持った、まちの集会所を計画した。Tポイントジャパンを中心に、多くの企業から建材などの支援を受けてこの建築は完成した。それは不安な生活を強いられている人々が誰でも立ち寄れる場所であり、まちの復興のシンボルとなる場所である。

2021 年現在、我々は新型コロナという不安と戦いながら日々の生活を送っている。「みんなの家」で実践されてきた空間が、これからの社会に問いかけ、どのような可能性を持っているか皆で考える時が来ている。

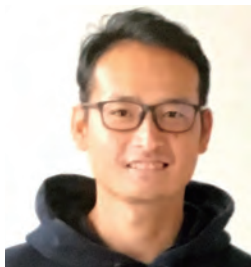


南相馬みんなの遊び場 撮影：「Photo516 佐藤純一郎」

今年で東日本大震災から 10 年の月日が流れた。

私が震災後、被災地の釜石に初めて足を運んだのは 2012 年。伊東豊雄氏が審査員の復興住宅プロポーザルの敷地を見学するためである。三陸沖を走る車中から飛び込んできた風景はまさに瓦礫と化したまちだった。この時から復興のプロポーザルがあるたびにチャレンジするも、力及ばずもどかしい想いが続いていた。

そんな折、2014 年、福島県南相馬市で「みんなの家」の設計に携わる機会が訪れた。「みんなの家」とは伊東氏が中心となって取り組んでおられる、地域の憩いの場を作るため最小の公共建築プロジェクトである。



なかやま ともひと
中山 智仁

株式会社コンテンツポラリーズ・
チーフアーキテクト

1979 年 静岡県生まれ
2004 年 東京理科大学大学院修了
(小嶋研究室)
2004 年～株式会社コンテンツポラリーズ
(2015 年より同チーフアーキテクト)
2020 年～日本工学院専門学校非常勤講師

野田建築会からのお願い

野田建築会ノダアーキサロン企画委員会よりアンケートご協力をお願い

第 3 回ノダアーキサロン開催にあたって、広く卒業生の皆様の声を聴かせていただけたらと考えております。かんたんなアンケートへのご協力をお願い致します。

期日 2021 年 10 月 17 日 (日)

アンケートはこちらから… <https://forms.gle/3pjNMWQnE7b1TK3t6>



NAA イベント企画に、ご協力ください。

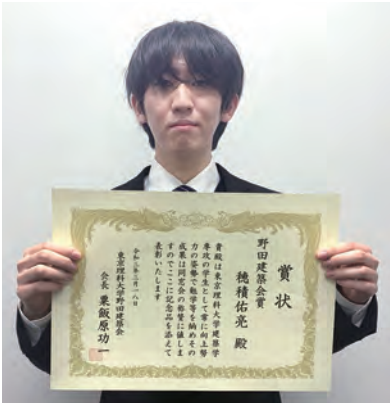
NAA では、会報発行のほか、ノダ・アーキサロンや建築見学会等の外部イベントを毎年企画し、在学生や同窓の方々との交流を図っています。益々の活性化のためにも同窓の皆さんからの新しいアイデアが必要で、企画のスタッフとしてご協力いただける方を募集しています。具体的な活動としては、毎月の Zoom ミーティングがベースですので、自宅から参加できます。

OB / O G 会という言葉のハードルを下げてください、ちょっと興味をお持ちの方は、野田建築会ホームページのお問い合わせ、または、Facebook ページに連絡をお願いします。

記：野田建築会会長 (栗飯原功一 1985 年卒)



2020年度 NAA 賞紹介



受賞者：穂積 佑亮 ほづみ ゆうすけ
 学部4年生（2021年3月卒業、宮津研究室）
 研究テーマ：木組みとその応用に関する研究

受賞コメント

この度は名誉あるNAA賞をいただき、誠にありがとうございます。自分が取り組んできたものを賞していただけたことを、大変嬉しく感じております。また、この栄誉はご指導いただいた宮津先生をはじめ、支えてくださった皆様のお蔭であると強く感じております。皆様に心から感謝申し上げたいと思います。

今後も身を引き締めて、日々精進していきたいと思います。希望ある未来をつむぐことに、これからも微力ながら力を尽くして貢献していこうと思います。

NAA賞の副賞としてお送りいただいた、イサム・ノグチさんのAKARIが自宅に届きました。非常に素敵な副賞をお送りいただき、誠にありがとうございます。大切に使用させていただきます。



今回のNAA賞副賞
 イサム・ノグチのAKARI

受賞理由

穂積佑亮君は、建築学科の学業に精力的に取り組む優秀な成績を修める傍ら、宇宙建築学に興味を持つ全国の大学生が参加する宇宙建築学サークル「TNL」にも所属し、2019年にはその代表を務めるなど、学内外でリーダーシップをとって活躍してきました。また、国内外のコンペティションにも積極的に応募し、2016年から開催されている火星に都市を設計する国際コンペティション『Mars City Design Challenges 2019』では2位入賞、宇宙建築に関する国内コンペティション『第6回宇宙建築賞』でも上位入賞を果たすなどの成果を取っています。卒業研究では、伝統木造建築に用いられる木組みの技術を他分野に応用するというテーマで、3Dプリンティング技術を活用した独創的な課題に取り組む優秀な成果を上げました。さらに、今年3月には宇宙教育をテーマとしたベンチャーを立ち上げその運営に主体的に取り組んでおり、今後の益々の活躍が期待されます。以上の業績をたたえ、穂積佑亮君にNAA賞を贈ります。

2020年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各賞受賞者リスト

【理工学部建築学科】

| | | | |
|------------------|-----|-----|--------------------------|
| 卒業論文賞 (一般コース) | 最優秀 | 伊藤研 | 結城 和佳奈 徳永 景子 前橋 宏美 |
| | 最優秀 | 吉澤研 | 牧野 佳乃子 |
| | 優秀 | 吉澤研 | 三宅 夢生 |
| 卒業論文賞 (通年コース) | 最優秀 | 大宮研 | 山田 しえ理 |
| | 最優秀 | 永野研 | 山田 晴香 |
| | 優秀 | 吉澤研 | 前田 彩 |
| | 優秀 | 高瀬研 | 澤田 実咲 |
| | 優秀 | 衣笠研 | 小中 翼 鈴木 喜裕 |
| | 優秀 | 大宮研 | 安部 まどか |
| 卒業設計賞 | 最優秀 | 西田研 | 山道 里来 |
| | 優秀 | 伊藤研 | 前橋 宏美 |
| | 優秀 | 伊藤研 | 結城 和佳奈 |
| 学業優秀賞 | 1位 | 衣笠研 | 鈴木 喜裕 |
| | 2位 | 伊藤研 | 土屋 遼太郎 |
| | 3位 | 垣野研 | 青木 快大 |

【理工学部研究科建築学専攻】

| | | | |
|---------|-------|-----|-------|
| 修士設計賞 | 最優秀作品 | 伊藤研 | 齋藤 匠 |
| | 優秀作品 | 山名研 | 篠原 麻衣 |
| | 優秀作品 | 岩岡研 | 落合 諒 |
| 修士研究奨励賞 | 最優秀賞 | 吉澤研 | 山本 竜也 |
| | 優秀賞 | 衣笠研 | 保永 将矢 |
| | 優秀賞 | 衣笠研 | 渡辺 美雪 |
| | 優秀賞 | 兼松研 | 小宮 克仁 |
| | 優秀賞 | 永野研 | 朝比奈 諒 |
| | 優秀賞 | 永野研 | 高平 友博 |
| | 優秀賞 | 宮津研 | 富田 愛 |

【共通】

| | | | |
|-------|------|-----|-------|
| NAA賞 | | 宮津研 | 穂積 佑亮 |
| 北村春幸賞 | 最優秀賞 | 衣笠研 | 保永 将矢 |
| | 優秀賞 | 宮津研 | 片田 宇彦 |
| | 優秀賞 | 永野研 | 高平 友博 |

| | | |
|------------------|-----|----------------|
| 千葉県知事賞 | 宮津研 | 穂積 佑亮 |
| 学部長表彰 | 伊藤研 | 小山 朝子 |
| | | 鈴木 晴瑛 |
| | | 高梨 淳 |
| | | 常泉 佑太 中谷 柗介 |
| 空気調和・衛生工学会振興賞学生賞 | 高瀬研 | 服部 達仁 |
| 日本建築仕上学会 学生研究奨励賞 | 兼松研 | 浅葉 拓也 |

コロナ禍における大変な状況に皆様のご苦慮ご苦難をお察し申し上げます。

さて、理窓会関連団体（以下、関連団体という）に登録された団体は、海外支部（2020年11月29日会則改正）が別団体となったため、現在67団体です。



山崎 委員長

さまざまな関連団体が登録されるなか、団体相互の親睦をはかるための交流会を毎年3月に開催してきましたが、昨年はコロナ禍のため開催を中止しました。

しかしながら、厳しい状況のなか、本委員会は昨年10月に交流会の開催を決断し、以降、開催の実施に向けた検討を始め、熟慮のうえ現状において実施可能なオンライン交流会を開催するに至りました。

交流会では従来、各団体から代表者挨拶として活動報告を行いましたが、オンラインによる制約があることから、活動報告の新たな形式として、

(1) 団体資料による活動報告：提出された団体概要を基に本委員会で作成した資料を全団体へ配布

(2) 動画による活動報告：希望の団体で所要1分に切り替えました。

開催当日は、団体代表者30名のほか理窓会関係者と合わせ計43名出席で、上村副委員長の総司会により、

第1部 活動報告会

第2部 基調講演会

第3部 懇親会（意見交換の場）

を行いました。

理窓会増淵会長のご挨拶は、関連団体についてこの1年の動向に触れていただき、私の挨拶は、開催までの経緯、本委員会の戦略、今後の委員会方針などを述べました。

活動報告は、前出の通り

(1) 資料：47団体

(2) 動画：11団体をそれぞれ行いました。

今回の大きな目的は、本委員会として各



増淵 理窓会会長

団体の活動内容の把握にあつて、そのことが団体相互のネットワークにつながり、以つて、理窓会に関連団体の積極的な活動状況を伝えるためでもありました。

その意味では、まずはその第一歩を踏み始めた感触もあり、今回を機にこれらの目的が少しづつ前に進めることができれば幸いです。

一方、懇親会での意見交換では、いくつか大学や理窓会への要望があり、今後の検討課題としました。

今回の新たな形式ながら、交流会を滞りなく終えることができ、安堵とともにこれからの関連団体の在り方をさらに引き上げていきたいと改めて思いました。

ご参加の皆様には深く感謝しつつ、今後とも理窓会関連団体皆様の一層のご協力をお願いする次第です。

<出席団体（団体からの代表者）>

理窓教育会（富岡康夫）理窓光学会（阿部仁一）理窓ビジネス同友会（山本幸央）理窓技術士会（井出川洋）理窓亀の子会（加納誠）理窓高砂熱学支部（柴田克彦）築理会（佐野吉彦）鶴志会（柳川昌徳）竹中工務店理窓会（野原聰哲）関西理窓会連合会（秋山茂夫）理窓会（加藤隆一）理窓美術同好会（平田敏昭）東京理科大学バスケットボールOB・OG会（牧野真憲）理庭会（河原安賢）II部体育会スキー部OB会トナカイ（白井康雄）東京理科大学事務局理窓会（小林秀至）東京理科大学薬学部同窓会（上村直樹）東京理科大学同窓経営者会（岩崎義政）野田建築会（栗飯原功一）理窓排球会（山極時生）I部化学研究部OB・OG連絡会（深谷将）I部体育局スキー部OB会（小宮全）東京理科大学数学教育研究会（伊藤稔）理窓ワトソン会（安永達幸）少林寺拳法部OB会（宮原健一）天文研究部同窓会（山本威一郎）織機理窓会（山田剛史）理窓こはく会（半谷精一郎）行政書士理窓会（今村彰啓）グローバル理窓会（大谷三喜男）以上、登録順30団体（太字：動画報告11団体）。ほかに、理窓会から団体関係の出席者として松原秀成、近藤明、岡本公爾（すべて敬称略）。

<第2部基調講演会>

テーマ：「SDGsと科学、数理・データサイエンス」

講演者：東京理科大学副学長

理学部第一部数学科

教授 若山正人氏



若山 副学長

<第3部懇親会>

佐野副委員長の司会により、意見が交わされました。

<関連団体対応委員会>

山崎晃弘（委員長・理窓会副会長）佐野吉彦（副委員長・同常務委員・築理会）上村直樹（副委員長・同常務委員・薬学部同窓会）伊集院一成（薬学部同窓会）栗飯原功一（野田建築会）五十嵐洋也（野田建築会）仲尾梓（築理会）本山真一朗（築理会）



第15・16回ホームカミングデー開催について

第15・16回ホームカミングデー開催のご案内
祝・東京理科大学創立140周年
～グローバルなネットワークでつながろう～
「自ら参加するHCD」2021年10月31日(日)

理窓会 HCD 企画実行部会
 部会長 山崎晃弘
 (1976 上原研)

理窓会ホームページや理窓会会報誌『理窓』でご案内しました標題について、最新の実施内容をお知らせいたします。
 今年度ホームカミングデー（HCD）は、理窓会ホームページの**特設サイトにてオンライン開催**となりますが、具体的には特設サイトから各イベントをご覧いただく形式といたします。

主なイベントは次の通り（録画配信）

- ・東京理科大学創立140周年記念講演「向井千秋先生×木村真一先生 特別対談」
- ・理窓会OB・OGアーティストによるHCDスペシャルショー
- ・大学吹奏楽部による演奏
- ・従来参加の団体部門として、サイエンス夢工房ほか大学関連グループ、理窓会関連団体の各団体の紹介と活動状況ほか等々となります。

加えて、たくさんの景品をご用意した「**お楽しみ抽選会 オンライン**」を設けましたので、皆様のご参加をお待ちしています。
 以上、初めてのオンライン開催ながら、実施内容の概要ですが、詳しくは理窓会ホームページをご覧くださいよう願います。

なお、**ホームカミングデーの『ガイドブック』を同封**しましたので、ぜひご活用ください。

かかるコロナ禍の状況ではありますが、実施に向けてできる限り努力いたしますので、皆様方のご理解ならびにご協力の程よろしくお願い申し上げます。



【編集後記】

2020年春号の会報編集後記では、参加者全員がマスクをしている会議風景の写真を掲載しましたが、その頃はまだコロナによる生活への影響がこんなに長引くとは想像もしていませんでした。会報恒例だった研究室同窓会（飲み会）の記事をまたご紹介できる日が待ち遠しいです。（とりやまあきこ）

野田建築会役員会も100% Zoom 会議です。神楽坂に集まっていた頃と違って遠方よりの参加も可能となりました。若い方の感覚を大切にしたいです。役員も年齢層が高くなっているの・・・興味のある方参加してみませんか？今回も私はとりやまさんのお手伝いです。感謝！！（大野 芳俊）

寄付のお願い

野田建築会（以下 NAA）の活動は皆様の普通会員年会費（年額 3,000 円）を大きな支えとし、会報の広告料収入と有志の皆様からの寄付により運営されています。その構成比率は会費収入 68%、広告収入 17%、寄付 15%（2020 年度実績）となっています。今後さらに積極的な活動を行うには寄付の比率を上げる必要があります。NAA へ寄付を頂きますと会報にお名前を掲載させて頂くほか（もちろん匿名も可）、名刺掲載や個人広告等のオプションを考えています。詳しくは野田建築会ホームページからお問合せ下さい。

これを機会に是非皆様からの寄付を頂きますようお願い申し上げます。

会費納入のお願い

NAA では会則により、2021 年度（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）の普通会員年会費として 3,000 円を徴収しています。これらは会報の発行、OB と語る会の開催、見学会等の研修、NAA 賞の授与、NAA サイトの維持その他 NAA の活動に有効に活用されています。こうした NAA の運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。（お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください）

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。
 (注) 年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記HPでお問合せください。

野田建築会会報 VOL.45 2021 AUTUMN

2021 年 10 月 1 日

編集：会報部会（とりやま あきこ / 大野 芳俊）

発行：東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

